

News Release



昭和电工株式会社

〒105-8518 東京都港区芝大門1-13-9

2020年3月18日

リチウムイオン電池向け包材「SPALF®」、車載大型製品向け量産設備導入を決定

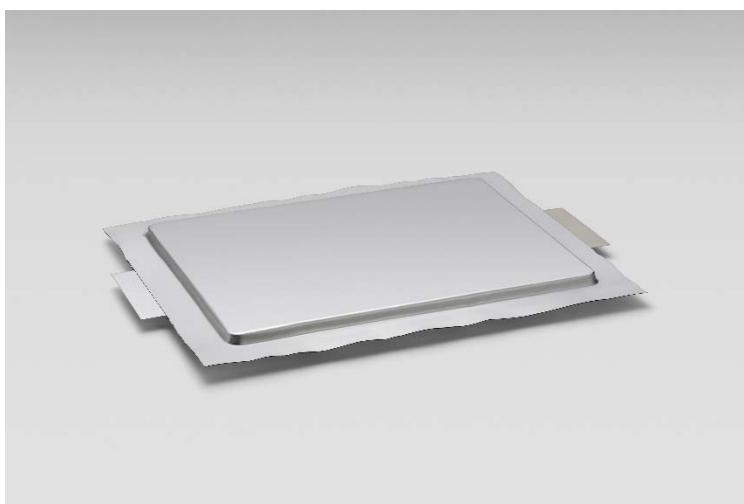
昭和电工株式会社（社長：森川 宏平）の子会社である昭和电工パッケージング株式会社（社長：辻 勝行）は、リチウムイオン電池（以下、LIB）の包材であるアルミラミネートフィルム「SPALF®」について、車載向けなど大型用途向けに特化した新製品を開発し、量産化設備を導入することを決定しました。新設備は2021年3月に稼働開始する予定です。

SPALF®は樹脂とアルミ箔をラミネートしたフィルムで、パウチ型LIBの包材として使用されます。高い絶縁性を持ち、成形性が優れることなどから、世界的に高いシェアを有しています。パウチ型LIBは形状の自由度が高く軽量であることから、スマートフォンやタブレットなどの小型用途で広く採用されていますが、近年、品質の高さが認められ安全性の評価が進んでいることから、電気自動車（EV）向けをはじめとする大型用途でも採用が拡大しています。中国に続き欧州でもEV開発が進み、パウチ型LIB包材の需要が高まっていることから、大型用途向け新製品を開発し、その量産設備の導入を決定しました。

昭和电工グループは個性派企業（収益性と安定性を高レベルで維持できる個性派事業の連合体）の実現をVision（目指す姿）としています。LIBの世界需要（容量ベース）は2025年まで年率30%の成長が予想されています*。当社はSPALF®をはじめ、正負極材添加剤VGCF®、水系バインダー樹脂ポリゾール®といった特徴のあるLIB部材を取り揃えています。これらの製品を拡販することで、LIB市場の成長や高機能化に貢献するとともに、先端電池材料分野での個性派事業の確立を目指します。

以上

*…当社推定



◆ 本件に関するお問合せ先：昭和电工（株）広報室 03-5470-3235